

〔萬葉集七
雜歌〕思故鄉

年月毛未經爾明日香河湍瀨由渡之石走無○中

旋頭歌

橋立倉椅川石走者裳壯子時我度爲石走者裳

〔萬葉集十
秋相聞〕寄花

石走間間生有貌花乃花西有來在筒見者

〔萬葉集十一
古今相聞往來歌〕寄物陳思

明日香川明日文將渡石走遠心者不思鴨

〔萬葉集十三
雜歌〕

帛叫檜從出而水蓼穗積至鳥網張坂手乎過石走甘南備山丹朝宮仕奉而吉野部登入座見者古所
念○中

此歌入道殿讀出給

〔永久四年百首雜石〕

おく山の人もかよはぬ谷河にせの岩橋たれわたしけん

〔夫木和歌抄二十一〕正治二年百首はしのい

つまざくるわがかよひちのほかにまた人もいひこねたにのいはし

〔夫木和歌抄二十一〕寶治二年百首水邊蟹はのはしが

くれゆけばこの下くらきいはしのみたらしがはにとぶ蟹かな

〔夫木和歌抄二十一〕欽冬藏橋はばしひのいはしたどるまでところもさらすさける山ぶき

修理大夫顯季卿

常陸

二條院讚岐